認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2022.8.31 発行

IV-NEWS

Vol. 45

表紙写真：ラオスのレストランでのインターンシップの様子。お客様を快くおもてなしをするための作法を練習中。上司からの厳しい目線が突き刺さり、緊張感が伝わります。

も　く　じ

特集1　ホスピタリティ・介護職業訓練
　チャンパー山の民奨学金・・・・・・・・・　P2.3
特集2　木工・家具職業訓練
　新ビジョンとミッション　・・・・・・・・　P4.5
事業報告・決算報告・・・・・・・・・・・・・・・　P6
幸子のラオスだより・・・・・・・・・・・・・・　P7
お知らせ、寄付者一覧・・・・・・・・・・・・・　P8

ホスピタリティ・介護職業訓練を終えて

事業実施期間：2019 年 3 月2日～2022 年 7 月 1 日

豊かな自然と歴史深い遺跡群があるラオス―――。 その魅力的な情景を求めて、観光に訪れる外国人も多く、旅行者を温かくお迎えするホテル従業員は観光立国を目指すラオスにとって重要な職業となっています。しかし、ホテルスタッフの教育不足や訓練不足から十分なおもてなしができず、ホテル業界の課題となっていました。そこで IV-JAPAN は長年の職業訓練の強みを生かし、質の高い人材を送り出す事業を実施しました。

新型コロナウィルス（以下、コロナ）感染拡大前のラオスは観光業が外貨獲得の20％前後を占めていましたが、スタッフの教育・訓練不足から十分なレベルのサービスの提供ができていませんでした。

そのため人材育成に経験を有する当団体が外務省のNGO連携無償資金協力事業（N連）を申請して2019年初頭に本事業が認められました。事業計画では2019年3月から研修施設の建設、必要な資機材の調達、トレーナーの養成を1年かけて行い、2020年3月～2022年2月の2年間に1期6ヶ月の研修コースを4期実施し、計80名の修了生をホテルスタッフとして送り出す、というものでした。

1年目の計画は順調に進み、研修施設はビエンチャン市近郊のナーサイトン職業教育訓練施設内に建設され、トレーナー2名もタイの専門家の指導や市内にあるサマセット・ホテルで実地訓練を受けました。2020年3月に1期生が集まり、これから訓練が始まる、というまさにその時に、ラオスでコロナが発生し、各種学校の閉鎖令が発令されました。このため1期生はすぐに帰郷、結果的に訓練開始は同年9月まで6ヶ月繰り下げられ、第2，3期も6カ月遅れ、第4期は研修期間を半分の3カ月に短縮して実施することとなりました。

6か月間の研修の内容

1期6カ月のうち前半の3カ月はホテルスタッフとしての基礎知識、例えばホテルの組織やスタッフとしての心得などを研修施設1階の教室で学び、実践は2階に設けた模擬ホテル室（ダブルベッドルーム 1、シングルルーム2）でベッドメイキング、客室掃除などをみっちりと学びます。後半の3カ月はホテルに来る高齢や障害を持った方にも対応できるように介護分野の研修を行いました。 具体的にはベッドから車いすに乗せてトイレに連れて行くまで、車椅子や杖の介助、救命救急措置、バイタルデータ（血圧など）のとり方などです。また、研修の全期間を通じて料理研修、ゲーム、体操、放課後に英語教室も行いました。また研修修了前にはインターンとして市内のホテルや大使公邸などで実際に働きました。

コロナ禍の訓練

研修第2期からは全期間がラオスのコロナ感染時期と重なり、各種学校閉鎖令や人の移動の禁止、都市封鎖が講じられました。このため第2期から試験的にオンラインでの授業に取り組み、寮に閉じ込められた形の研修生と自宅待機を命じられたトレーナーをオンラインで結んで何とか研修を続けました。当初、職業訓練校でのオンライン授業は修了単位と認めない、としていたラオス側も担当者がオンライン授業に参加するなど効果を確認いただき、ラオスの職業訓練校でオンライン授業の本格実施とそれが修了単位として認められた初のケースとなりました。
スタッフの給与や研修に必要なお金はN連資金で賄いましたが、研修生の家とセンター往復の旅費、食費などの生活費は当団体の「チャンパー山の民奨学金」で賄いました。コロナ過で輸入に頼っているラオスの生活費が 25％値上りパルシステム埼玉の募金を追加食費に当てさせていただきました。ご支援いただいた皆様に厚く御礼申します。

上：感染予防のためオンラインで研修を実施
下：毎夕の検温で体調管理

介護（体位変換）研修

ベッドメイキング研修

寮の夕食、みんなで食卓を囲んで

卒業生の進路

当初はホテル従業員の育成を目的とした本事業ですが、研修が始まった時からコロナの感染が広がり、ラオスのホテルはほぼ全面営業停止となりました。このため、研修が修了してまだ間もない第4期生を除く1～3期生修了者57名のうち、ホテルのスタッフになったのは1名(厨房担当)でした。今年の6月からラオスは国境措置をほぼ撤廃して一般観光客の受け入れを再開しましたので今後に期待です。それでも57名のうち70%は新たな職に就くことができました。後半の介護研修で取得した技術を買われて家庭内介護士となった者1名、レストランのスタッフ3名、ハウスキーパー4名、店の従業員9名などのほかに家事手伝い8名、幼稚園の先生、NGOスタッフなどです。IV-JAPAN がこれまで行ってきた職業訓練の修了生は70%の就業率だったのでこのコロナ禍でも今までと同じ就業率を確保できました。また1～3期生からは3名が結婚、4名が進学を果たしました。特に難関と言われるラオス国立大学(ドンドック大学)の英語科に1名が進学しました。家庭の経済状況で一度はあきらめた進学の夢を本研修に来て奨学金制度を知り、研修が終わった後の夜に猛勉強して合格を果たしました。

こう書いたルアンプラバン出身の女性は、今、地元の幼稚園で先生をしています。

研修に参加して・・・・

『私の家は貧しくて十分な教育の機会が得られませんでした。そのためこの訓練に参加して学ぶことができて幸せです。ここに来たことをとても感謝しております。それといろいろな県の方と出会うことができたことも嬉しいです。寮を用意いただき山の民奨学金のドナーの皆様おかげで食費や日当が手当されており大変感謝しております。ここで学んだことを私は、私の家族、地域の発展のために役立てたいと考えております。また、私が学んだことは私だけのものにしないで他の貧しい方々にも伝えて、よりよい生活のためになるようにしたいと考えております。』

チャンパー山の民奨学金事業

遠く僻地に住む山岳民族の女性・青少年に安心して職業訓練を受けられる機会を与えたい

首都ビエンチャンは、経済が発展してきており貨幣経済が成立してきているものの、地方によってはまだまだ自給自足の生活が中心で、なかなか現金収入を得るのが難しい地域があります。 奨学金により授業料などの負担を減らすことができれば、遠く僻地に住む彼女らも職業訓練に参加することができます。また、経済的な安定を得ることにもつながります。 職業訓練は新しい人生の一歩を踏み出す第一歩であり、奨学金により、職業訓練を希望する人々の背中を一押しすることができます。

IV-JAPAN は引き続き、貧困家庭出身の若者が経済的理由で学ぶ機会を閉ざさないようにチャンパー山の民奨学金事業を実施していきます。 彼女ら、彼らの夢を未来に繋げるため、今後もご支援どうぞよろしくお願いいたします。

一口 60,000 円のご寄付で奨学生1人が職業訓練に参加できます。

寄付方法

【郵便振込】

同封の振込用紙に必要事項をご記入の上、ご送金をお願いいたします。

【銀行振込】

下記の口座宛に振込をお願いいたします。

(振込後、振込内容とお名前・ご連絡先を事務局までご連絡ください)

銀行名: 埼玉りそな銀行 浦和中央支店

口座番号:普通預金 5038052

名義人:トクヒ)コクサイキョウリョクエヌジーオー・アイブ

【奨学金 60,000 円の内訳】

・交通費 10,000 円 ・・・遠い僻地からバスで上京する際の交通費(往復)

・食費 45,000 円 ・・・半年分の食費(1日3食 250 円×6 か月)

・奨学金運営費 5,000 円・・・奨学金を現地へ届けるための管理費等

ドナー様へ、現地の奨学生からのお手紙をお届けします。

精巧で美しく、丈夫な家具をラオスの地で

JICA 草の根技術協力事業 「木工・家具職業訓練」完了報告

事業実施期間：2018 年 1 月～2022 年 7 月 31 日

東南アジアに位置するラオス人民民主共和国は四方をタイ、中国、ミャンマー、ベトナム、カンボジアに囲まれた内陸山岳国で、豊富な木材資源を有しています。ラオスでは、この木工資源を活用し、家具製作といった木工製品加工販売が盛んであり、家具販売からの収入は住民の生活水準向上のために非常に重要です。

しかしながら、木材を効率的に利用し、精巧で美しく、商品価値の高い（＝収入につながる）家具を製作するための技能を持ち合わせていないのが現状です。その背景には、木工教育を担う職業教育校の質が十分でないことがあり、高い技能を持った木工職人が育成されず、質の良い家具を製作することができていない事が理由の一つとして挙げられます。

このような背景を踏まえ、IV-JAPAN は、木工技術者の技術力不足の解決策として、木工技術者の輩出に重要な役割を果たす木工職業教育校の教員への人材育成が有効であると考え、職業教育校におけるトレーナーの木工製作技術と指導力の向上を目指し活動を行いました。

なお、本事業は、JICA 草の根技術協力事業のスキームを活用し、2018 年 1 月から 2022 年 7 月までの 4 年 6 ヶ月間、 ラオス職業開発機関（以下、VEDI）をカウンターパートに、「ラオス木工職業教育校におけるトレーナーの技能向上プロジェクト」として実施しました。

プロジェクト実施中はコロナ感染症の影響で実施が一時中断されてしまうこともあり、プロジェクトが思うように進まなかったこともありましたが、プロジェクトに関わった VEDI と地方の職業教育校の全ての木工科教員が、新しい技術や知識を得ようと積極的にプロジェクトに関わってくれました。

また、トレーニングを通して新しい技能や知識を得た後は、それぞれの学校で学生たちに自ら得たものを伝えており、技術が伝承されていく様子も見られました。

このプロジェクトによって、技術力の高い木工職人の育成及びラオスの木工産業の発展に寄与できたのであれば、私達にとって大きな喜びです。プロジェクトに関わってくださったすべての方にお礼を申し上げます！！

プロジェクト成果 1

日本人専門家が直接指導

10 週間の木工トレーニング（2018 年と 2019 年の 2 回）

地方の職業教育校の木工科教員を対象に、木工のトレーニングを実施しました。講師として、日本から家具職人の先生や、木工機械整備、木材塗装、家具デザイン、木材乾燥の専門家を招き、実践を通した技術指導を実施しました。1 年目にはスツール・クッション椅子・学習机を製作し、2 年目にはカフェテーブル・ラウンジチェア・キャビネットの製作など、やや難しい工程のある家具製作を行いましたが、参加した木工科教員は、日本の精巧で丈夫な家具作りを学ぶことができました。

プロジェクト成果 2

チャンタチョン先生（青いポロシャツ）が製作指導を実施

短期テーマ別研修の実施

10週間の木工トレーニングに参加した職業教育開発機関（VEDI）の木工科教員のチャンタチョン先生が、地方の職業教育校の教員にクッション椅子の製作指導を実施しました。先生は、日本人の家具職人などから学んだことをしっかり伝えており、地方の木工科教員のスキルアップトレーニングを担う VEDI 教員の役割を務めることができるようになりました。

プロジェクト成果 3

木工・家具製作動画の作成

家具の製作動画を製作し、YouTube にアップロードしました。これまで、ハンガーラック、スツール、キャビネット、学習机、肘掛け椅子の家具製作動画を製作しました。経験の少ない木工科教員であっても、動画は、何度も繰り返し見ることができるので、学生に精巧で丈夫な家具作りの指導をすることができるようになりました。

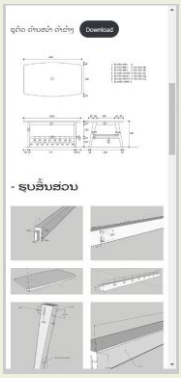
https://www.youtube.com/channel/UCxcxnP0Qn-_arTSUk2PvRQA

プロジェクト成果 4

木工のホームページの作成

椅子、ベッド、キャビネット、本棚、ハンモックなど家具の図面をダウンロードすることのできるホームページを作成しました。三面図だけでなく、家具パーツの3D 図面、試作品の写真なども一緒にダウンロードして利用することができ、これらの図面を使うことで経験の少ない木工科教員であっても精巧で丈夫な家具製作の指導を行うことができるようになりました。

ホームページアドレス:https://iv-japan.org/woodworking/



プロジェクト成果 5

木工技術書を手に取る学生たち

木工技術書の作成

IV-JAPAN、VEDI、学校外教育センター、ラオス家具組合が協力して木工技術書を製作しました。日本の木工技術書がベースになっており、この技術書を使って、精巧で丈夫な家具作りの基礎を学ぶことができます。地方の職業教育校には木工の教科書がないため、この技術書は教科書ではないものの、教科書に替わるものとして使われるようになりました。

プロジェクト成果 6

家具ショールームの設置

プロジェクトを通して、製作した家具を展示する家具ショールームを VEDI に設置しました。VEDI に会議等で来た木工科教員や木工関係者が精巧で丈夫な家具の実物を見てもらうことができるようになりました。

お洒落でデザイン性の高い家具はラオスでも人気

OUR VISION AND MISSION

IV-JAPAN は、Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs の助成を受け、組織改革に取り組んでいます。 現代において、IV-JAPAN が目指すべき姿、使命は何なのか・・・。それらをゼロから整理し、2022年 5 月に IV-JAPAN 新ビジョンとミッションを創りました。 支援して下さる方にも分かりやすい団体の方針や理念になったのではないかと思います。

VISION
目指す社会像

地球上のすべての人々が違いを超えて共生できる平和な社会の実現を目指します。

MISSION
果たす使命

共生できる平和な社会の実現を目指して、国際協力活動、特に職業訓練や就業支援を通してアジアの人々の心と経済両面での自立を促進するとともに、国内外において相互理解のための活動を行います。

スローガン

『その手に技術を、アジアに自立を。』

ミッション・ビジョン新設の背景

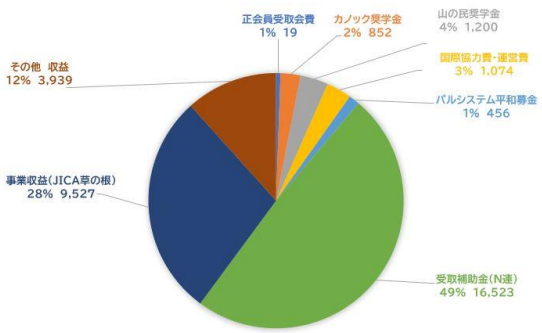
IV-JAPAN は、冨永代表理事が1988年5月に創設し活動を始めてから、今年で34年が経ちました。創設当初は若かった代表や同世代で構成された理事、支援者も34年の年を重ね、理事会でも今後の組織運営をどのようにすべきか、という課題について多く議論するようになりました。 主な組織運営業務が代表に集中している現体制の改善や安定的な事務運営費の確保をすべきであることは理解しているものの、ほとんどの理事が別に本業を持ち時間的制約もあるため、具体的な改善策を実施できずに困っていました。新たな世代の支援者も巻き込んだ支援者の拡充が課題となっています。

そんな中、世界的な社会課題である「貧困の解消」に向けて取り組む NPO／NGO が持続発展的に社会変革に取り組めるよう、その組織基盤強化に助成する「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」というメニューがあることを知り、応募して改善に向けた一歩を踏み出そうということになりました。

様々な方のご支援ご協力もあり 2021 年の選考を無事通過し、今年 1 月から外部専門家を招いて組織診断作業を開始。その後、理事や事務局職員、外部アドバイザーによるワークショップを重ね、現在は組織基盤強化計画立案の最終段階となっています。 新しいビジョンとミッションは本助成事業の成果となっています。 （副代表理事 河島一郎）

2021年度 事業報告 2022年度 活動計画

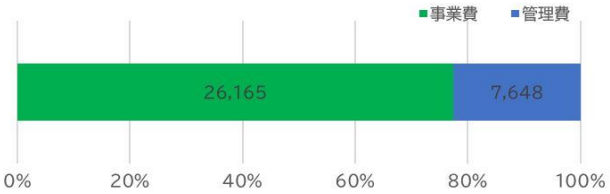
2021年度 収益の内訳(単位:千円)



経常収益増減額(単位:千円)

2021 年度は総収益 33,763,402 円でした。 受取寄付金(奨学金含む)および正会員受取会費は 3,582,957 円で総収益の 10.6%です。 2021年度の正味財産増減額は△50,891 円でした。 その他の収益は、為替差益によるものです。
今期は 247 万円を現地の貧困家庭出身の若者へ奨学金としてお渡ししています。寄付金はアジア地域の人びとの貧困解決・社会課題解決に向けた推進力として活用させていただいております。
※ N 連:外務省 NGO 連携支援無償資金事業
JICA 草の根:JICA 草の根パートナー委託事業

2021年度 事業費比率 (グラフ数字単位:千円)



経常費用のうち事業に使用された費用の割合を示す事業費率は 2021 年度 78%でした。

開示情報の前提
IV-JAPAN は財務健全性を保つために、本ページにおいて債務情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。なお、会計処理開示方法については、NPO 会計基準に従っております。**(詳しくは団体 HP の年次報告をご覧ください。)**

2021年度 主な事業実施報告	
奨学金事業	❖カノック奨学金:72 名分の奨学金が集まり、ラオスの職業訓練生に奨学金を支給いたしました ❖チャンパー山の民奨学金:ホスピタリティ介護職業訓練に参加した43名の食費(生活費)・交通費として支給いたしました
海外事業	❖ラオス木工職業訓練校における教育レベル向上プロジェクト(JICA 草の根パートナー事業4年目)実施 専用ホームページの作成や木工動画制作を通じて、国内の木工関係者の技術力向上に寄与しました。 ❖地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ介護職業訓練(外務省 NGO 連携支援無償資金事業3年目)を実施 卒業生は、それぞれ就職など新たな進路へ。中には猛勉強をして大学へ進学したものもいました。
国内事業・開発教育	コロナウィルス感染拡大防止のため、予定されていた料理教室やスタディツアーは中止となりましたが、オンラインによる参加型イベントを実施し、国際協力への理解が深まったと反響がありました。
組織基盤強化	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs の組織診断コースに採択され、自己財源拡充のための解決策の策定に取り組みました。

2022 年度 主な事業計画	
奨学金事業	❖カノック奨学金:80 名分の奨学金を募集します。 ❖チャンパー山の民奨学金:ホスピタリティ職業訓練やビ都辺境郡女性のための介護職業訓練に参加する 55 名の食費(生活費)・交通費として支給します。
海外事業	ビエンチャン都辺境郡の女性の自立のための介護職業訓練を実施します。ビエンチャン都にある辺境郡(パクグム郡、サントン郡)に住む貧困家庭出身の女性(15 名×2期 計 30 名)に対し、1期3か月間の介護訓練を2期行う予定
国内事業・開発教育	❖大学生インターン、ボランティア受入をします。 インターン、ボランティア等を日本事務所およびラオス事務所で受け入れ、プロジェクト等を通して国際協力への理解を深め、将来国際的に活躍する人材を育成していきます。 ❖アジア文化理解講座を実施します。 日本人にアジア料理、語学、文化、経済、社会等を学ぶ機会を作り、アジア理解の促進を図る活動を実施いたします。コロナ情勢によりオンライン/ハイブリットイベントも検討
組織基盤強化	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs を活用し、組織基盤強化を実施していきます。自己資金拡充のために HP の改定や広報活動の見直しと実施などを実践していきます。

活動を支えてくださるボランティアさん募集しています

IV-JAPAN のボランティアに登録して、各種イベントに出展の際、設営準備や物品販売、来場者への活動の説明など IV-JAPAN の活動を推進してくださる方を募集しています。
ボランティア登録は、右の QR コードを読取って送信 または☎048-622-8612 まで

幸子のラオスだより　物価高に自衛するたくましい人々

ここコロナ禍の 2 年間で物価が上がってしまい、ほとんどの生活用品や食品がタイからの輸入に頼っているラオスは、品物も不足がちで、輸入されていないものも多いのです。

まず一番にガソリンの値上げがすべての物価高に影響しています。6 月まではガソリン不足で、それも売るガソリンがなくて閉鎖しているお店も多く、口コミで「どこそこはあるよ」と聞くと、そこへ殺到するので、ガソリンスタンドに長蛇の列ができ 2~3 時間待ちは普通でした。（写真下記）やっと 7 月に入り、だいたい大通りに面している店はガソリンを売っていますが、なんと、コロナ前の倍額です。1 リットル約 192 円です。今月の 8 月で政府ストックのガソリンが底をつき、9 月からはまたガソリン不足でガソリン買いに長蛇の列ができるのではと言われています。私はコロナ過で日本に一時帰国していたため、車を動かさなかったので、タイヤとバッテリーを交換しないといけなくなり、タイ製のタイヤは品切れで商店に在庫はなく、ドイツ製の高いタイヤしかありませんでした。1 本およそ 16,000 円、バッテリーはおよそ 17,000 円でした。

調理用のプロパンガスは何と 2 倍になり、私の家では IH 電気で料理するようにしました。電気代はそんなに上がっていません。一人住まいの自宅で月およそ 2,100 円。水道代もメコン川の水をくみ上げて浄水場でろ過して、水は自給自足ですのでとても安いです。1 立方メートル 2,300 キップ（およそ 21 円）。自宅で月 290 円ですが、ろ過するときの薬品がタイからの輸入なので、今後値上がりするだろうとの専門家の話しです。そこで政府は 8 月 1 日に 4 年ぶりの改定でラオスの最低賃金が月 110 万キップ（10,120 円）から 130 万キップ（約 12,000 円）に上がりました。段階的に来年 2023 年 5 月 1 日には 150 万キップ（13,800 円）にまで上がる予定です。最低賃金を決定するのは労働社会福祉省、労働組合連盟、商工会議所の 3 者の話し合いで決めますが、なかなか合意に至らず段階的値上げとなりました。最低賃金の改定を受けて雇用主側は給与の値上げを考えています。基本的な米や野菜はラオスでは自給自足できているのであまり値上がりはしてなく、それはラオスの素晴らしいところです。コメの値段は 1 キロあたり約 110 円、もち米は 1 キロ 92 円です。ラオスの民族で 65%を占めるラオ族の常食がもち米なので、もち米の方が安いです。大方のラオス人の家では果物の木を植え、季節になるとマンゴー、パパイヤ、バナナ、アボガド、パッションフルーツ、ジャックフルーツ等を植えて、果物を買うことはありません。私の家にも大家さんが植えていたので、マンゴーなどはよそ様に差し上げられるほど毎日 50 個ほど取れました。

ただ、パパイヤはカタツムリに芽を食べられて、雨季の今でも 1 本のパパイヤに 3 ～5 匹のカタツムリが張り付いているので、毎朝カタツムリ退治をしています。お肉は軒並み 25%ほど値上がりで、現在は豚肉 1 キロ約がりしたので、460 円でしたが、今週は 644 円にもなり、あまりにも値上りしたので政府は消費者保護のため豚肉をビエンチャンの 2 カ所で安い価格で販売し始めました。これで価格をコントロールするそうです。安くなるといいのですが。鶏肉は安く 1 キロおよそ 400 円ですが、鶏は庭で飼っている人が多いですね。卵もコロナ以前は 1 個 10 円くらいでしたが、今は 18 円です。ほとんどのラオス人は料理は七輪で薪か炭で調理するので、炭 1 束（大）がおよそ 500 円で、1 か月家族 3 人の料理ができます。

また、スーパーでは買わずに、市場で買うようにしていると。なぜなら、スーパーには物はたくさんあっても（一時は輸入品不足でスーパーの棚はガラガラでした）、税金で 1 割ほど高くなるので、と言ってました。つまり市場で 1 坪ほどの店に物を並べて商売している人は税金を払ってないらしいです。昆虫やカエルは日常的に食べるし、時に蛇を捕まえたときは食用に料理します。

私もカエルの唐揚げは食べたことがあります。淡白なお味でおいしかったですよ。食用に養殖している人もいます。昆虫食はたんぱく源として政府も奨励しいる伝統食で、コオロギ、バッタ、サソリ、山のゴキブリ（町のゴキブリの 2 倍の大きさ）等を食べます。

コロナ過でよかったことは外出制限があって、夫が外でビールを飲むことがなかったので、お金を使わずに済んだと近所の奥さんたちは言ってます。今も引き締めているけど、元に戻りそうと。ビールは辞められないのでしょうね。中には髪の毛を長く伸ばして、50cm ほどになるとおよそ 1,400 円で売れるそうです。そういえば、ラオスに日本のウイッグメーカーの下請け工場もありますね。結婚前の女性はガムポームという丸いお団子のような伝統髪型を結婚式で結いますので、髪を長く伸ばしますが、既婚女性は髪はすぐ生えるので、構わないと言ってます。本当に偉いです。皆節約して、物価高を乗り切ろうとしていますが、それが通常の生活の仕方で、贅沢をしない、輸入品を買わなければ恐れることもないですね。政府もラオス産を奨励して、例えばハンドバッグなども竹やラタン（籐）で編んだものは環境にも優しいので、ラオスで流行してますよ。ラオスのように日本も自給自足ができるといいのですが。

いつもご寄付ありがとうございます。寄付者をご紹介いたします
2022 年 4 月 1 日～2022 年 7 月 31 日 ※敬称略

チャンパー山の民奨学金 寄付者 1口 60,000 円
利根川恵子(1口)、高岡万葉ロータリークラブ(5口)、栗林聡(3口)、伊藤裕子(5口)

カノック奨学金 寄付者 1 口 12,000 円
三澤順子(2口)、利根川恵子(1口)、山口愛子(1口)、宮澤雅博(2口)、和田治江(1口)、石坂幸子(1口)、春日曠(1口)、八木道子(1口)、玉寄明美(1口)、松下倶子(1口)、中澤達夫(1口)、冨井伊都子(1口)、川口道子(1口)、伊藤裕子(3口)

国際協力費・運営費 寄付者 ※2,000 円未満は省略させて頂きます
佐復正雄(3,000 円)、筒井美花(3,000 円)、斎藤加代(30,000 円)、織田佐由子(12,000 円)、池田敏秀(25,000 円)、斎藤友美恵(3,000 円)、小林愛子(3,000 円)、宮澤雅博(6,000 円)、近藤利雄(10,000 円)、吉野福恵(20,000 円)、金野喜久子(20,000 円)、池上洋子(3,000 円)、玉寄明美(3,000 円)、高倉昌子(3,000 円)、塩谷雄一(50,000 円)、松下倶子(3,000 円)、栗林聡(200,000 円)中澤達夫(3,000 円)、入江利恵子(5,000 円)、伊藤裕子(4,000 円)
※前号にて金野喜久子様(20,000 円)の記載漏れがございました。この場を借りてお詫び申し上げます。

SNS でも IV-JAPAN のお知らせをご覧になれます。
ぜひ、ご登録おねがいいたします。

twitter @IVJAPANHQ
LINE @706lmpfg
@IvJapan
IVJAPANMIHASHI

千客万来

「おきなわ国際協力人材育成事業」JOCA16 人が 8 月 18 日職業訓練所を訪れ、OJT 食堂でラオス料理に舌鼓を打ち、マッサージやシャンプーの体験をしました。JOCA は 3 年ぶり 4 回目の訪問になります

IV-JAPAN の活動はみなさまのご寄付に支えられています

●IV-JAPAN に寄付をすることで活動に参加しませんか？

①カノック奨学金	12,000 円(1 口)以上	奨学生の授業料補助になります
②チャンパー山の民奨学金	60,000 円(1 口)以上	訓練中の食費や交通費として
③国際協力費・運営費	個人:3,000 円以上／団体・法人:10,000 円以上	

●申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。
郵便振替 :(口座番号) 00140-5-537168 (加入者名)IV-JAPAN
銀行振込 :埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号:5038052
名義人:(特非)国際協力 NGO・IV－JAPAN

認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
ホームページ:https://iv-japan.org/

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

アカウンタービリティ
セルフチェックマーク